

課外教養プログラムプロジェクト
2020年度 活動報告書

法政大学学生センター

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、本学のあらゆる課外活動が大きな制約を受けることとなりました。課外教養プログラムプロジェクト（KYOPRO）も春学期中はほとんど実施ができませんでした。それでも、年間を通じて 24 のプログラムを実施できましたのは、多くの方々のお力添えによるところであり、心より御礼申し上げます。

感染症の予防のために急速に進んだオンライン化は、課外活動のあり方のあらたな可能性を示すものだったとも言えます。昨年度最初の実施となった「多摩キャンパスバーチャルツアー」は、キャンパスに入ったことのない新入生にとって大学生活を身近に感じられる素晴らしいプログラムだったと思います。また、外国との交流を図るプログラムとして、一昨年度はブルガリア大使館を訪れてその文化を体験する「パスポートのいらないブルガリア」を実施しましたが、昨年度は「法政大学×サラエボ大学 オンライン交流会」を実施することになりました。外国への渡航どころか、身近な人と会うことすら忌避されていた状況下において、外国の文化を体験するには最良の方法だったと思います。

一方、対面で実施できたプログラムもありました。とりわけ「先人は凄かった！総長と学ぶ江戸ロジー」については、田中優子総長の強いご希望により対面で実施させていただき、さらに田中総長には準備段階から学生と協働していただきました。参加した学生たちからも喜びの熱い声が寄せられ、大成功となりました。田中総長には感謝に堪えません。なお、本学学生に向けたものとしては、このプログラムが田中総長の最後の講義になりました。

また、「ジャズを楽しもう～With corona, With music」も全三回にわたり対面で実施しました。こちらは市ヶ谷学生センター長の坂上学先生を中心に企画されたもので、坂上先生の人脈により本学出身のプロのジャズミュージシャンに参加してもらうことができました。教員が正課での専門とは異なる分野で企画を進めた点、その道で活躍する卒業生が学生と結びつく形で実施された点など、これまでに無い取り組みで、課外教養プログラムの新たな可能性を探る上でも大きな意味があるものだったのではないかと思います。

このジャズ企画は「学生生活応援プロジェクト」の一つでもありました。「学生生活応援プロジェクト」は、近藤清之理事の発案によるもので、厳しい制約の下に置かれざるを得なかった学生達の課外活動を大学の方でバックアップしていくことを目指すものです。課外教養プログラムとサークルの共同企画をこのプロジェクトに位置付けることで、サークルの活動を支えていくことができました。

このように様々な工夫のあった一年間でしたが、総括して言えば、やはりオンライン化を無条件に礼賛する気にはなれないというのが正直なところです。外国の文化を知りたいのなら、その国に行くのが最良ですし、その国の人や文化と直に交わる方が良いに決まっているからです。やはり代替物は代替物に過ぎません。また、Zoom というツールは確かに便利ですが、「退出」の赤いボタンの一押しだけで瞬時に切れてしまう人間関係には、発展性が

感じられません。

実際のところ、オンライン化が進めば進むほど、生で人と人が接することの大切さがより強く感じられたというのが、偽らざるところです。大学について言えば、大学に来て多くの人と交わるという当たり前のことこそが、大学における経験の多くの部分を占めているのだと、あらためて強く認識させられました。

もちろん、現実にはどうしてもない様々な制約が存在しています。それでも、最終的にはあるべき日常を取り戻せるまで、可能な限りの努力や工夫を重ね、今できる最良のことを求め続けることが大切なのではないのでしょうか。何もせず諦めていては、人は成長しません。失敗しても醜くても、あがき続けることこそが人を成長させてくれます。

敢えて断言しますが、この一年は不自由なだけの一年でした。この一年を美化するつもりは全くありません。でも、そのなかでできることを模索し続けたことは、きっと学生スタッフや参加者、関係した教職員の全てにとって、永く価値を持ち続ける経験となったのではないかと思います。

次の一年は、前の一年の経験を活かして、より良い活動ができることを願ってやみません。